

講義名	経済学入門（経済学部）			授業形態	
担当教員	丸山 亜希子	開講期・曜日・時間	後期 月曜日 3 時限		
		単位数	2	履修開始年次	1 年生
				ナンバリング・コード	

主題と概要
資金や物価(インフレやデフレ)の問題、あるいは為替レートの話など、日々の新聞やニュースで経済問題が論じられない日はありません。このような経済問題を理解する道具としての経済学の基礎を学びます。 具体的には、現在の経済理論における大きな柱であるミクロ経済学とマクロ経済学を取り上げて、その基本部分を講義します。ミクロ経済学では、われわれの経済活動を支えている市場の役割と限界を勉強します。またマクロ経済学では、経済活動の規模を測る指標であるGDPなどに触れます。経済理論は抽象的で、一見すると難しいと感じるでしょうが、できるかぎり現実の具体的な事例に触れながら説明します。

到達目標
経済学の考え方をいると、新聞やニュースで取り上げられている事象に対して、簡単な予測が立てられるようになります（例えば、政府が行う政策が人々の行動にどのような影響を与えるか、など）。この授業ではそのための基礎知識の習得を目指します。

提出課題
普段（平常時）の授業時に課題を課しますので期限内に提出して下さい。また、これとは別に、期末試験があります。詳細は講義中にアナウンスします。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法
普段（平常時）の小課題については、次の授業回で解答・解説を行う予定です。

評価の基準
普段（平常時）の課題 30点 期末試験 70点 計100点

履修にあたっての注意・助言他
課題は締め切り厳守です。期間後の提出は未提出扱いとします。

教科書				
.マンキュー入門経済学（第3版）.	N.グレゴリー マンキュー	東洋経済新報社	3520	9784492315217

参考図書				
.ミクロ経済学の第一歩（新版）.	安藤 至大	有斐閣	2310	9784641150850

その他
レジュメと課題等を配布します。レジュメには一部空欄を設けます。

授業計画
経済学の基礎知識 第1回 経済学の十大原理（教科書1章） 第2回 経済学者らしく考える（2章） ミクロ経済学の基礎知識 第3回 市場における需要と供給の作用（4章）（1）～完全競争市場とは 第4回 市場における需要と供給の作用（4章）（2）～需要 第5回 市場における需要と供給の作用（4章）（3）～供給 第6回 市場における需要と供給の作用（4章）（4）～均衡 第7回 需要、供給、および政府の政策（5章）（1）～価格規制 第8回 需要、供給、および政府の政策（5章）（2）～税金 第9回 消費者、生産者、市場の効率性（6章） 第10回 市場の失敗（7章） 第11回 外部性（7章） マクロ経済学の基礎知識 第12回 国民所得の測定（8章）（1）～GDPとは 第13回 国民所得の測定（8章）（2）～名目GDPと実質GDPを計算してみよう 第14回 生活費の測定（9章） 第15回 生産と成長（10章） ※皆さんの理解度によって、授業内容が前後する場合があります。

授業形態（アクティブ・ラーニング）			
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク
	オ：プレゼンテーション		カ：実習、フィールドワーク
	キ：その他（A L 型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）		

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間
予習・・・毎回教科書の該当範囲（上記「授業計画」を参照のこと）を読んで、内容を理解する必要があります。（2時間/回） 復習・・・毎回配布するレジュメを基に、まとめたノートを作成するなどして、復習してください。（2時間/回）

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連
講義内容を理解することで、社会的にみて望ましい、個人の行動、企業の行動、政府の行動を考えることが可能となる。これにより、ディプロマポリシーの「現象や事象のなかに隠れている問題点やその要因を発見し、解決すべき課題を設定することができる(課題発見力)」、「さまざまな条件・制約を考慮して、解決策を吟味・選択し、課題の解決に向けた道筋や取組みを明らかにした上で、具体化することができる(構想力)」、に到達する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述
クリックシステム（レスポンス等）をアンケート等や課題の提出に利用する。

実務経験の有無及び活用

備考
教科書を必ず用意すること。